



2015年岡崎市北部丘陵で多く見られたクロカタビロオサムシ

小 鹿 亨

クロカタビロオサムシ *Calosoma maximowiczii* (Morawitz) は、オサムシ類の中では後翅が退化していないので、飛ぶことができるオサムシである。そのためか、ミカワオサムシなどのように、紙コップなどを使ったピットホール・トラップには入らず、平素はなかなか姿を見つけることが難しい種であるように思う。しかしながら、本種はしばしば大発生することが知られており、三河の昆虫 No.62 (2015) においても、大平仁夫先生や鈴木栄二先生が岡崎市内の記録をそれぞれ報告しており、近年本種が多く発生しているようすが伺われる。筆者も岡崎市において、2015年に多数の本種を目撃・採集したので記録として報告する。

クロカタビロオサムシと同時に採集した他のオサムシ類もデータを挙げておく。オオオサ：オオオサムシ *Carabus dehaanii*、ミカワ：ミカワオサムシ *Carabus arrowianus*、クロナガ：クロナガオサムシ *C. procerulus*。なお、ミカワオサムシは色彩の変異があるので色彩型を示した。赤は赤銅色型、黒は黒色型を示す。

2015年も岡崎市内の低山地の林では、鱗翅類の幼虫がたくさん見られた。そうした林縁部で落葉がたまったところなどで耳を澄ましていると、かさかさとおサムシ類が枯葉の上を歩く音が聞こえる。(写真1)

ミカワオサムシ、オオオサムシ、クロナガオサムシなども見られたが、観察された個体数はクロカタビロオサムシが群を抜いて多く、本種が優占しているようすであった。さらには、飛翔してササなどの葉上にいるようすも見られた。(写真2)

今回筆者が確認した場所は岡崎市の中北部にあたる。他の地域でも見られないか、限られた期間



写真1. 枯葉の上を歩くクロカタビロオサムシ
(2015年5月3日, 岡崎才栗町)



写真2. ササの茎を歩くクロカタビロオサムシ
(2015年5月3日, 岡崎才栗町)

に調査を試みた結果を〈データ〉に示す。

〈データ〉

- 3-V-2015 岡崎市才栗町：10♂♂4♀♀.
クロナガ1♂(目撃)。
4-V-2015 岡崎市才栗町：4♂♂1♀♀.
ミカワ1♂(赤1♂)。
5-V-2015 岡崎市才栗町：6♂♂3♀♀.
ミカワ1♂2♀♀(1黒♂1♀黒1♀赤)。
9-V-2015 岡崎市才栗町：4♂♂。
ミカワ2♂♂(1黒♂1赤♀)・オオオサ1♀♀。

- 9-V-2015 岡崎市茅原沢町: 1♂.
ミカワ1♂2♀ (1黒♂1黒♀1赤♀).
10-V-2015 岡崎市大柳町: 3♂♂1♀.
10-V-2015 岡崎市蔵次町: 3♂♂.
オオオサ1♀.
10-V-2015 岡崎市駒立町: 1♂.
10-V-2015 岡崎市新居町: 3♂♂1♀.
17-V-2015 岡崎市生平町: 1♂.
クロカタビロオサムシの大発生は、鱗翅類の幼虫の大発生との関係が原因とされることが多いが、本種が他のオサムシ類と同様に年1化の生活環を持っているとすると、その年の春に鱗翅類幼虫が多いだけでは、クロカタビロオサムシの大発

生を説明するのは難しいように思う。少なくとも複数年において、餌資源である鱗翅目幼虫の大発生が見られ、本種も増加してきたと考えるのが自然ではないだろうか。今後は、翌年以降の発生状況、さらにこのような本種の大発生が見られる地域的な広がりにも注視していきたい。

引用文献

- 大平仁夫. 2015. 昆虫の異常発生を記録に残しましょう.
三河の昆虫No. 62, p.850. 三河昆虫研究会
鈴木栄二. 2015. 岡崎市におけるクロカタビロオサムシの採集例. 三河の昆虫No. 62, p.842. 三河昆虫研究会

茶白山高原でヒサマツミドリシジミを確認

大曾根 剛

愛知県のヒサマツミドリシジミ *Chrysozephyrus hisamatsusanus* は、県東部の豊川・天竜川水系には広く分布する。生息地は主に食餌植物のウラボシ科の越冬卵の確認によるもので、まだ成虫の記録は少ない。

2015年7月11日、北設楽郡豊根町坂宇場御所平茶白山高原(1215m)で1♂を採集した。筆者がAM8:30頃に駐車場で休憩中、敏速に飛来してきて舗装道路に静止、日光浴をした個体であった。その後、同地点から約400m離れた場所でも別の1個体(♂)を確認したが、捕獲には至らなかった。

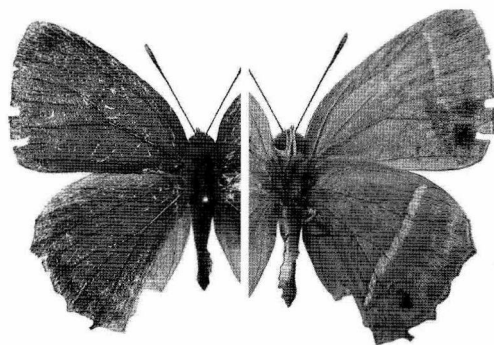
また、筆者はこの1週間前の7月4日にも、同じ山系の約8.5km離れた設楽町津具松原ノ木峠でも1♂を採集した。面ノ木峠で成虫が初めて記録(鈴木・中野(1990))された当時は、中国地方でブナより越冬卵が得られた記録(油井(1979))が出ていたため、ブナ林のある当地でも発生が考えられていた。その後も成虫は少ないながらも散発的に記録されている。

しかし、これらの山域が水源となっている津具川や坂宇場川の約15km下流の新豊根ダムのみどり湖周辺は本種の発生地が多く、成虫が羽化後に

長距離を飛行して周辺の尾根部に集まる場所が点在する(筆者未発表資料)。筆者の採集した2個体はいずれも中破した個体であったことや、茶白山高原や面ノ木峠ではウラボシ科の自生がないことから、みどり湖周辺で発生した成虫の飛来域が、面ノ木峠や茶白山高原にまで達しているものと考えられる。

文献

- 鈴木・中野(1990) 愛知県のミドリシジミ類-追加記録
および訂正-. 佳香蝶. 42(164): 1-2.
油井秀臣(1979) 中国地方遠征隊列伝. 月刊むし. (95): 19-26.



茶白山で確認されたヒサマツミドリシジミ♂
左: 左翅表面 右: 同裏面

設楽ダム貯水予定区域の水生昆虫(2)

市川 靖浩

はじめに

豊川上流部に建設が進められている設楽ダムは、貯水予定区域(図1)を含む周辺の地域で工事が行われている。筆者はこの設楽ダムに水没する貯水予定区域に生息する水生昆虫の調査を行っており、ヒメドロムシ科については既に一部を報告している(市川,2014)。

前回の報告時には水没する区域に民家がまだ多く残っていたが、本報告の執筆時には、ほとんどの民家は取り壊された。八橋地区では旧八橋小学校の校庭に沿って境川が流れ、この校庭脇から境川へ下りて何度か調査を行ってきたが、ついにこの校舎も取り壊されることになった(『中日新聞』2015年12月9日朝刊)。現地へ調査に訪れるたびに、かつて民家等があった場所が更地になっていく風景を目の当たりにしてきた。採集を進める近傍を工事車両が行き交い、重機の音を聞きながら調査を進める場面も少なくなかった。貯水予定区域の多くには豊かな自然環境が残っている。しかし他へ目を移せば開発の光景が視野にあり、ある種の感慨を覚えながらの調査であった。

調査方法

調査期間は2013年10月から2015年10月末までに貯水予定区域内で採集した水生昆虫のうち、コウチュウ目 Coleoptera とカメムシ目 Hemiptera を対象とした。前回報告したヒメドロムシ科については新たに確認した種のみとした。

採集方法は、D型フレームネット(直径33cm、網目1mm)による掬い採りのほか、ヒメドロムシ科の流木に依存する種については、水底に沈む流木を拾い上げ見つけ採りした。

採集記録と解説

採集個体は全て乾燥標本にして筆者が保管している。この標本のデータと解説は以下に示す。採集地名は全て北設楽郡設楽町であるので町名は省

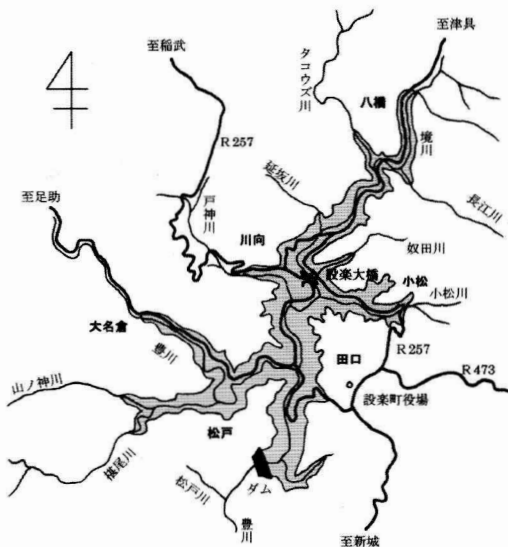


図1. 設楽ダム貯水予定区域(網かけ部分)

略し、採集者・保管者も全て筆者なので、これも省略した。

コウチュウ目 Coleoptera

ミズスマシ科 Gyrinidae

1) オナガミズスマシ

Orectochilus regimbarti regimbarti Sharp

1頭, 21-IX-2014, 八橋的場(境川); 5頭, 22-IX-2015, 同所。

境川の岸辺の岩陰付近で水流が緩やかな場所から採集された。同定にあたっては佐藤(1977)に基づき♂交尾器を抽出し確認した(図2A)。

ゲンゴロウ科 Dytiscidae

2) キボシケシゲンゴロウ

Allopathria flavomaculatus (Kamiya) (図2B)

4頭, 22-IX-2015, 八橋的場(境川); 2頭, 22-IX-2015; 小松(境川)。

境川の岸辺の岩陰付近で水流が緩やかな場所から採集された。

愛知県では犬山市五条川の記録がある(佐藤, 1990)。三河地方では豊川水系当貝津川において

上手・池田 (2010) が本種を採集しており、本報告は三河地方で2例目の記録と思われる。

学名には *Nipponhydrus flavomaculatus* (Kamiya) があるが、本報告では「改訂版 図説日本のゲンゴロウ」(森・北山, 2002) に従った。環境省第4次レッドリストでは情報不足 (DD) に選定されている (環境省, 2012)。

3) キボシツブゲンゴロウ

Japanolaccophilus nipponensis (Kamiya)

11頭, 22-IV-2015, 八橋的場 (境川); 4頭, 22-IX-2015, 小松 (境川); 8頭, 9-X-2015, 同所。

境川の岸辺の岩陰付近で水流が緩やかな場所から採集された。上述のキボシケシゲンゴロウと一緒に採集されることもあり、生息環境は似かよっていると思われる。本種は同所において2014年に採集しているが (市川, 2015)、愛知県においては稀な種であるため追加で記録しておく。環境省第4次レッドリストでは準絶滅危 (NT) に選定されている (環境省, 2012)。

4) チビゲンゴロウ

Hydroglyphus japonicus Sharp

1頭, 21-IX-2014, 八橋谷合。

コンクリートの構造物に溜まった水たまりから採集された。水田や水たまりなどの止水域から採集される。体長は2mm程度と非常に小さい。学名には *Guignotus japonicus* Sharp があるが、本報告では「改訂版 図説日本のゲンゴロウ」(森・北山, 2002) に従った。

5) モンキマメゲンゴロウ

Platambus pictipennis Sharp

3頭, 22-IX-2015, 八橋的場 (境川); 1頭, 22-IX-2015, 小松 (境川)。

境川の岸部付近より採集された。上流から中流域に生息する種である。三河地方においては普通種である。

6) クロズマメゲンゴロウ

Agabus conspicuous Sharp

4頭, 18-X-2014, 八橋谷合。

コンクリートの構造物に溜まった水たまりから採集された。ため池や湿地などの止水域に生息する。

7) ヒメゲンゴロウ

Rhantus suturalis (Macleay)

1頭, 21-IX-2014, 八橋谷合; 5頭, 18-X-2014, 同所。

コンクリートの構造物に溜まった水たまりから採集された。ため池や湿地などの止水域に生息する。

8) ハイイロゲンゴロウ

Eretes sticticus (Linnaeus)

1頭, 18-X-2014, 八橋谷合。

コンクリートの構造物に溜まった水たまりから採集された。ため池や水たまりなどの止水域に生息する。分布は北海道、本州、四国、九州、南西諸島のほか、国外では台湾、朝鮮半島、中国、東南アジア、インド、ヨーロッパ、北アフリカ、オーストラリア、北アメリカなどにわたり、きわめて広範に分布する (森・北山, 2002)。

9) コシマゲンゴロウ

Hydaticus grammicus (Germar)

4頭, 21-IX-2014, 八橋谷合; 4頭, 18-X-2014, 同所;

1頭, 21-IX-2014, 八橋的場 (境川)。

コンクリートの構造物に溜まった水たまりから採集された。ため池や湿地などに生息する。境川の採集地では岸部の岩陰から採集されたが本種は流水域ではほとんど採集されないため偶産と思われる。

ダルマガムシ科 Hydraenidae

10) ハセガワダルマガムシ

Ochthebius hasegawai Nakane & Matsui (図2C)

1頭, 13-X-2013, 大名倉 (豊川・大名倉橋)。

溪流の水面から頭を出す岩で、水の飛沫がかかる場所のくぼみで採集された。同属のセスジダルマガムシ属 *Ochthebius* のうち、ナカネダルマガムシ *O.nakanei* Matsui やホンシュウセスジダルマガムシ *O.japonicus* Jach に似るが、前胸背が縦長で側方の透明部が明瞭なこと、中央部の縦溝が明瞭

で体長が2.4mm程度あることなどから本種と同一とした。同定にあたっては吉富ほか(2000)の検索表と絵解き検索を参考にした。

11) ホンシュウセスジダルマガムシ

Ochthebius japonicus Jach (図2 D)

1頭, 28-VII-2014, 八橋的場(境川).

前種との相違点として前胸背の中央部の縦溝が不明瞭で体色の銅色味が弱く、光沢がより強いこと、体長が1.8mmと小さいことなどから本種と同一とした。同定にあたっては吉富ほか(2000)の検索表と絵解き検索を参考にした。

ガムシ科 Hydrophilidae

12) マルガムシ

Hydrococassis lacustris (Sharp)

1頭, 22-IX-2015, 八橋的場(境川).

溪流の落葉や流木などの溜まったところから採集された。

13) シジミガムシ属の一種

Laccobius sp.

1頭, 21-IX-2014, 八橋的場(境川); 3頭, 31-V-2015, 同所.

溪流脇の斜面から流れる湧水が岩場のくぼみに溜まっており、本種はこの水たまりに生息していた。種の同定はできなかったため今後の課題としたい。

14) ツヤヒラタガムシ

Agraphydrus narusei (M.Sato) (図2 E)

1頭, 22-IX-2015, 小松(境川).

境川の岸辺の岩陰付近の水流が緩やかな場所から採集された。図2 Dでは前胸背の右端が欠損しているが、これは採集時から破損している。

15) キイロヒラタガムシ

Enochrus simulans (Sharp) (図2 F)

1頭, 21-IX-2014, 八橋的場(境川).

境川の岸辺の岩陰付近で水流の緩やかな場所から採集された。

16) ヒメガムシ

Sternolophus rufipes (Fabricius)

3頭, 21-IX-2014, 八橋谷合; 1頭, 18-X-2014, 同所.

コンクリートの構造物に溜まった水たまりから採集された。ため池や湿地などの止水域に生息する。

ヒラタドロムシ科 Psephenidae

17) マルヒラタドロムシ属の一種

Eubrianax sp. (図2 G)

1頭, 31-V-2015, 八橋的場(境川).

境川の岸辺の岩陰付近で水流の緩やかな場所から採集された。種の同定はできなかったため今後の課題としたい。

18) マスダチビヒラタドロムシ

Malacopsephenoides japonicus (Masuda)

1頭, 22-IX-2015, 小松(境川).

境川の岸辺で雄1頭のみが採集された。岸辺の岩か植物についていたものが網にはいったものと思われる。体長は2mm程度だが雄は長く縮れたクシ枝状の触角があるため同定は容易である。

ドロムシ科 Dryopidae

19) ムナビロツヤドロムシ

Elmomorphus brevicornis Sharp

2頭, 21-IX-2014, 八橋的場(境川); 11頭, 22-IX-2015, 同所; 1頭, 18-X-2014, 小松(境川); 7頭, 22-IX-2015, 同所; 7頭, 9-X-2015, 同所.

境川の岸辺付近の抽水植物の根際から採集された。

ヒメドロムシ科 Elmidae

20) イブシアシナガドロムシ

Stenelmis nipponica Nomura

1頭, 22-IX-2015, 八橋的場(境川).

境川の岸辺付近の抽水植物の根際から採集された。

21) アシナガミゾドロムシ

Stenelmis vulgaris Nomura

1頭, 28-VII-2014, 大名倉(豊川・大名倉橋).

豊川の岸辺付近の抽水植物の根際から採集された。

22) ツブスジドロムシ

Paramacronychus granulatus Nomura

5頭, 6-V-2014, 川向マンゼ.

境川に流れる沢の流木から採集された。

カメムシ目 Hemiptera

ミズギワカメムシ科 Saldidae

1) *Macrosaldula* 属の一種*Macrosaldula* sp. (図2H)

2頭, 18-X-2014, 小松(境川).

境川の岸辺の岩陰付近から採集された。飛翔能力が高く、すぐに飛び立とうとするため採集が難しい。体長5.8mm程度。タニガワミズギワカメムシ *M. miyamotoi* Cobben やオモゴミズギワカメムシ *M. shikokuana* Cobben に似るが、種の同定はできなかつたため今後の課題としたい。

2) ミズギワカメムシ

Saldula saltatoria (Linnaeus)

1頭, 31-V-2015, 八橋的場(境川).

境川の岸辺の岩陰付近から採集された。

イトアメンボ科 Hydrometridae

3) ヒメイトアメンボ

Hydrometra procera (Horvath)

2頭, 22-IX-2015, 八橋的場(境川).

境川の岸辺の岩陰付近から採集された。

カタビロアメンボ科 Veliidae

4) ナガレカタビロアメンボ

Pseudovelgia tibialis Esaki et Miyamoto

2頭, 21-IX-2014, 八橋的場(境川); 9頭, 22-IX-2015, 同所; 6頭, 22-IX-2015, 小松(境川).

境川の岸辺の岩陰付近から採集された。

アメンボ科 Gerridae

5) シマアメンボ

Metrocoris histrio (B.White)

4頭, 18-X-2014, 小松(境川); 8頭, 22-IX-2015, 同所; 4頭, 22-IX-2015, 八橋的場(境川).

境川の岸辺の岩陰付近から採集された。

ナベバタムシ科 Aphelochiridae

6) ナベバタムシ

Aphelocheirus vittatus Matsumura (図2I)

5頭, 28-VII-2014, 八橋的場(境川); 4頭, 18-X-2014, 小松(境川).

境川の岸辺付近の水流が緩やかな場所から採集された。愛知県第3次レッドリストでは準絶滅危惧(NT)に選定されている。

まとめ

本報告ではコウチュウ目7科22種、カメムシ目5科6種を確認した。前回の報告(市川, 2014)ではヒメドロムシ科9種を報告しているので、全部でコウチュウ目7科31種、カメムシ目5科6種を確認したことになる。

特に注目すべきは、境川の本流においてキボシケシゲンゴロウやキボシツブゲンゴロウが生息することである。これら2種は全国的にも希少種であり、愛知県内でも採集例は非常に少ない。境川と同じ豊川水系の当貝津川においてこの2種は確認されているため、本水系では広く分布する可能性がある。

設楽ダム貯水予定区域はダムの完成によって水没する。冒頭にも述べたが工事の進捗により当該区域の景観が変わりつつある。筆者が行なえる調査には限界があるが、可能な限りこの美しい水辺環境に生息する水生昆虫相を記録にとどめたい。

引用文献

市川靖浩(2014) 設楽ダム貯水予定区域の水生昆虫(1), 三河の昆虫, 61: 817-819.

市川靖浩(2015) 設楽ダムに水没する河川で採集した希少種のキボシツブゲンゴロウ, 三河の昆虫, 62: 840.

上手雄貴・池田都志也(2010) 愛知県におけるキボシツブゲンゴロウの記録, 甲虫ニュース, 170: 30.

環境省(2012) 報道発表資料, 第4次レッドリストの公表について(お知らせ), 添付資料, (別添資料5) 各分類群の明らかになった点について(2015年12月20日参照),

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=15619>

森 正人・北山 昭(2002) 改訂版 図説日本のゲンゴ

ロウ. 231pp. 文一総合出版.

『中日新聞』2015年12月6日朝刊, 27面.

佐藤正孝 (1977) 日本産ミススマシ科概説 (3). 甲虫ニ
ュース, 39: 1-4.

吉富博之・松井英司・佐藤光一・疋田直之 (2000) 日
本産セスジダルマガムシ属概説. 甲虫ニュース, 130:
5-11.

佐藤正孝 (1990) 愛知県の甲虫類 (I). 愛知県の昆虫 (上):
204-231. 愛知県.

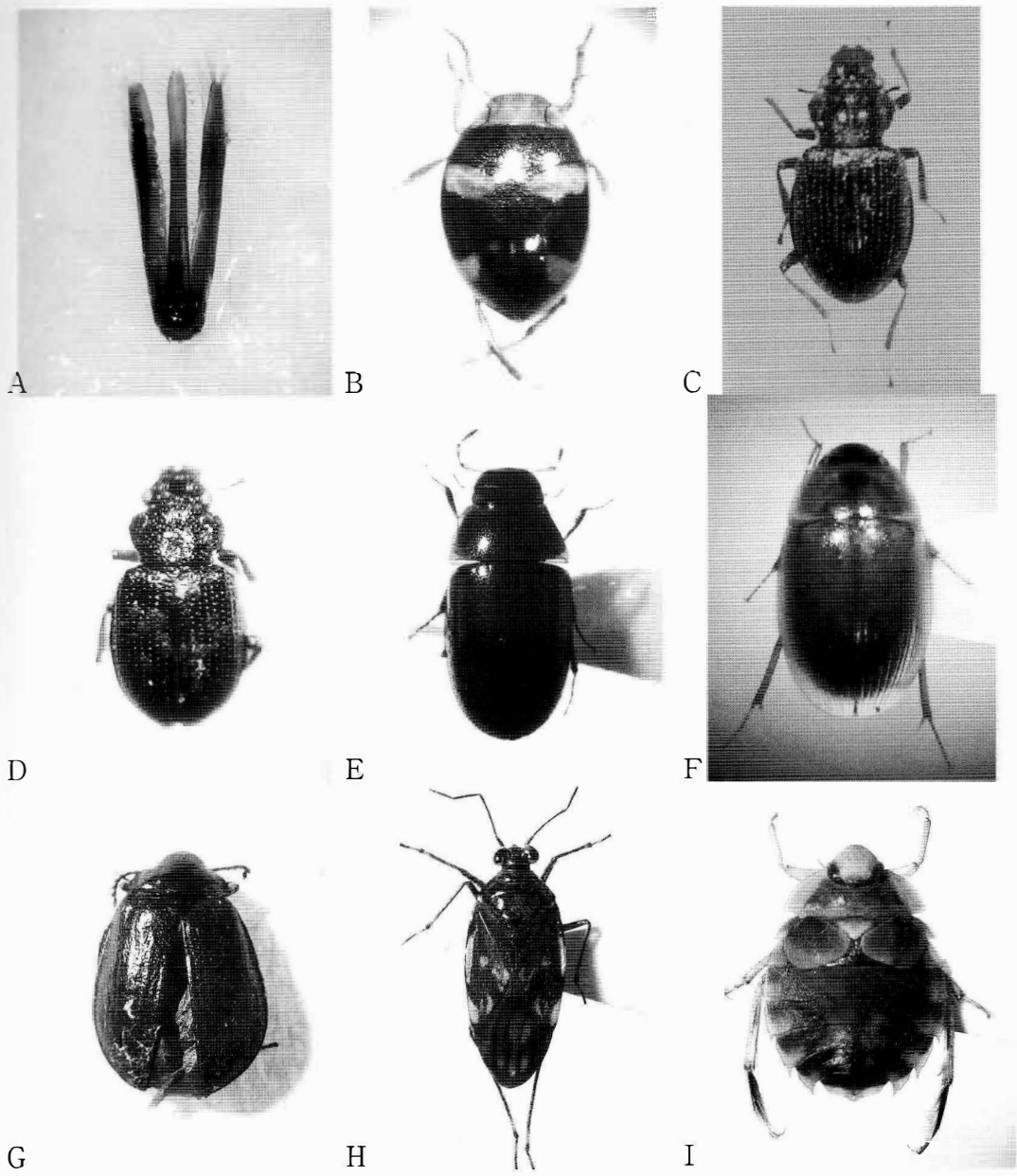


図2. A: オナガミズスマシ♂交尾器. B: キボシケシゲンゴロウ, C: ハセガワダルマガムシ,
D: ホンシュウセスジダルマガムシ, E: ツヤヒラタガムシ, F: ケイロヒラタガムシ,
G: マルヒラタドロムシ属の一種, H: *Macrosaldule* 属の一種, I: ナベバタムシ.

ヒョウモンチョウ類の小呂湿地における出現期について

杉坂美典

1 はじめに

ミドリヒョウモンなどの大型のヒョウモンチョウ類は、1970年から80年にかけては、岡崎市の東北部にある丘陵地で普通に見ることができた。しかし、2000年代に入ると、理由はよく分からないがその数は激減した。ところが、2010年以降、再びその数を増やしている。

そこで、小呂湿地では、成虫の発生期の5月や6月では、ほとんど記録が出ないが、夏眠後の9月からはかなりの数の個体が確認できるので、なるべく定期的に、晴天の午前10時前後における出現数を調査することにした。

ここに今年の調査結果を発表する。この調査は、来年度以降も継続して行う予定であり、関係諸氏からの情報の提供やご指導・ご意見を賜りたいと思う。

2 調査場所

岡崎市小呂町小呂湿地一帯

3 調査時間帯

晴天時の午前10時前後

4 調査方法

湿地の周辺を飛翔していたり、花に飛来したりしている個体を目視で確認し、写真撮影することによって個体の特徴を確認し、重複してカウントしないように注意する。

5 調査日 ※ 全て、2015年

9月9日	9月12日	9月18日	9月20日
9月23日	9月26日	9月28日	10月2日
10月3日	10月6日	10月8日	10月10日
10月12日	10月15日	10月17日	10月19日

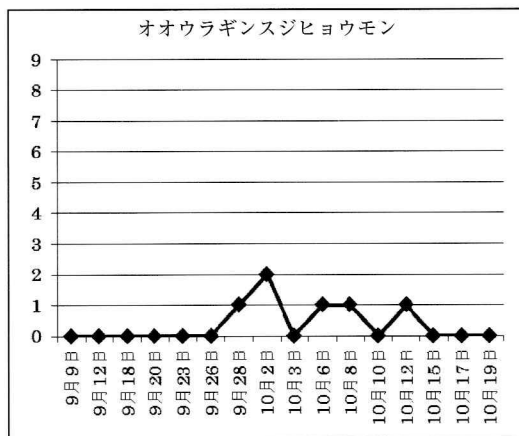
6 種ごとの調査結果と出現数の変化

(1) オオウラギンスジヒョウモン

① 記録日と個体数

- ・ 9月28日 1♀
- ・ 10月2日 1♂1♀
- ・ 10月6日 1♀
- ・ 10月8日 1♀
- ・ 10月12日 1♀

② 出現数の変化



オオウラギンスジヒョウモン ♀

(2) ミドリヒョウモン

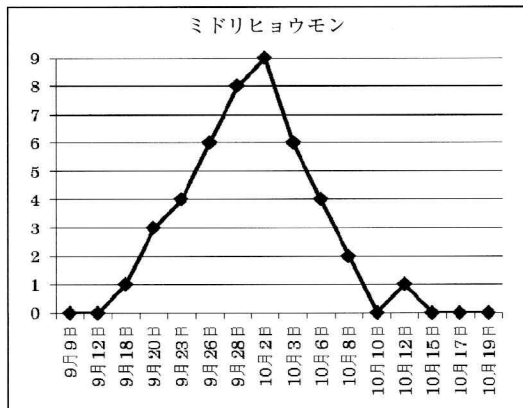


ミドリヒョウモン ♂

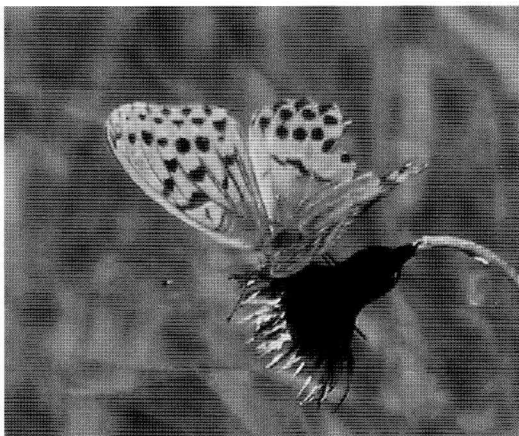
① 記録日と個体数

- ・ 9月18日 1♂
- ・ 9月20日 2♂♂1♀
- ・ 9月23日 2♂♂2♀♀
- ・ 9月26日 3♂♂3♀♀
- ・ 9月28日 6♂♂2♀♀
- ・ 10月2日 3♂♂6♀♀
- ・ 10月3日 2♂♂4♀♀
- ・ 10月6日 2♂♂2♀♀
- ・ 10月8日 1♂1♀
- ・ 10月12日 1♀

② 出現数の変化



(3) メスグロヒョウモン

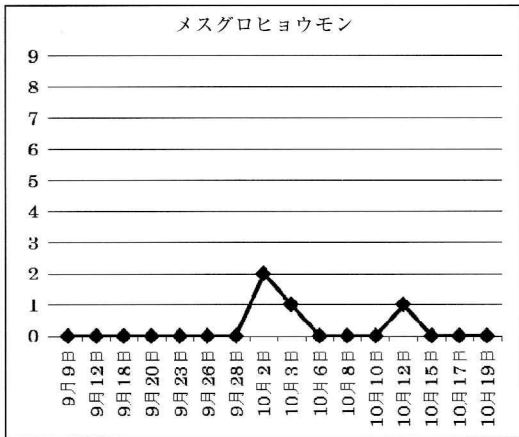


メスグロヒョウモン ♂

① 記録日と個体数

- ・ 10月2日 1♂1♀
- ・ 10月3日 1♂
- ・ 10月12日 1♂

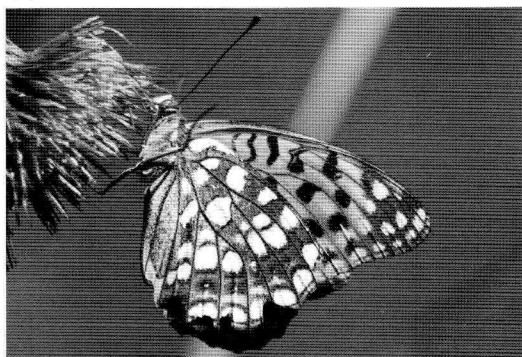
② 出現数の変化



③ その他

10月2日には、メスグロヒョウモンの♀が産卵行動をしており、食草のスミレ類だけではなく、木道、枯れ枝、私のズボンなど、手当たり次第に産卵する様子が見られた。

(4) ウラギンヒョウモン

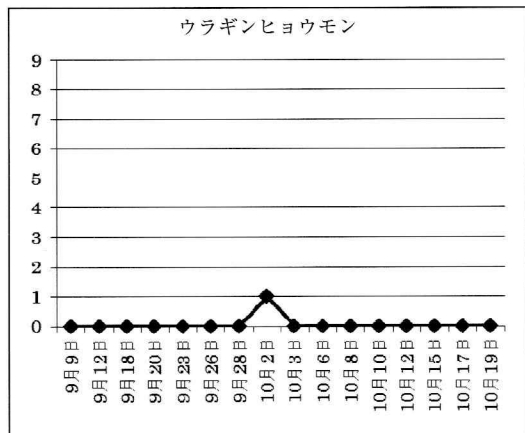


ウラギンヒョウモン ♀

① 記録日と個体数

・10月2日 1♀

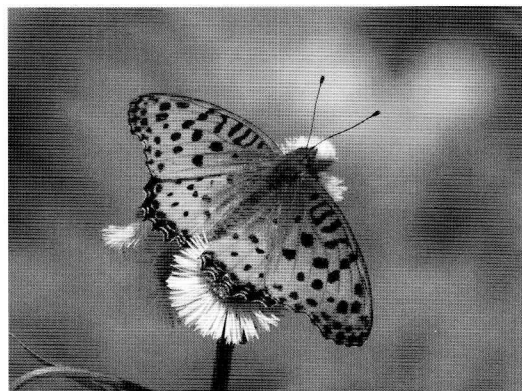
② 出現数の変化



③ その他

岡崎市で本種の記録が出たのは、1980年以來である。

(5) ツマグロヒョウモン

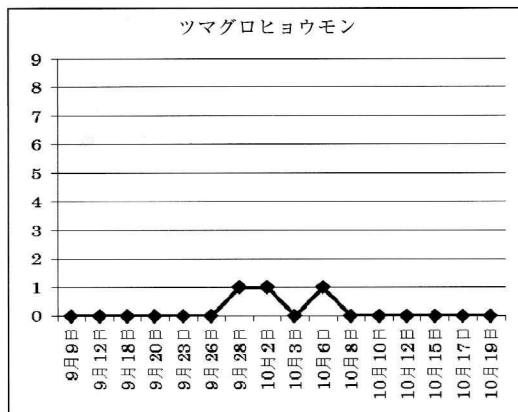


ツマグロヒョウモン ♂

① 記録日と個体数

・9月28日 1♀
 ・10月2日 1♀
 ・10月6日 1♀

② 出現数の変化



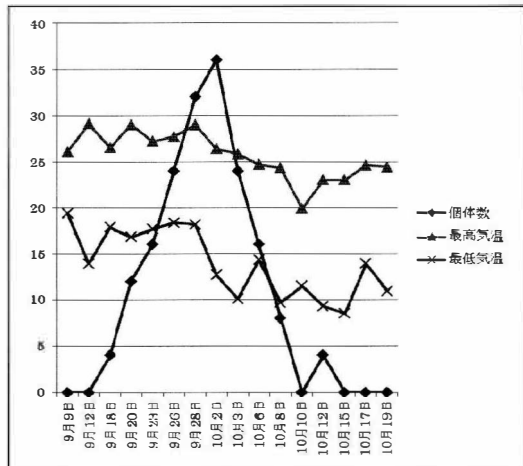
③ その他

市街地には、ツマグロヒョウモンは多いが、小呂湿地周辺では、少ない種である。

7 結果

次は、ミドリヒョウモンの出現数と岡崎市の最高気温、最低気温のデータである。

調査日	個体数	最高気温	最低気温
9月9日	0	26.1	19.4
9月12日	0	29.1	13.9
9月18日	1	26.5	17.9
9月20日	3	29.0	16.8
9月23日	4	27.2	17.7
9月26日	6	27.7	18.4
9月28日	8	29.0	18.2
10月2日	9	26.4	12.7
10月3日	6	25.8	10.1
10月6日	4	24.7	14.3
10月8日	2	24.3	9.7
10月10日	0	19.9	11.5
10月12日	1	23.0	9.3
10月15日	0	23.0	8.5
10月17日	0	24.6	13.9
10月19日	0	24.4	10.9



8 考察

- ・ 9月上旬になって最低気温が18度を下回ると夏眠から覚め、蜜を求めて小呂湿地に飛来し、今年は、飛来する個体が10月2日に最も多くなった。
- ・ 9月下旬から10月上旬には、盛んな追飛行が見られ、そのことによって体力が低下し、10月2日を過ぎると、最低気温が13度を下回るようになり、夜間の体温低下によって死滅

する個体が多くなるのではないだろうか。

・ 昼の時間が徐々に身近になることによって、体内ホルモンの影響で、産卵行動が促され、10月2日頃には産卵が終了し、体力が低下することによって、徐々に死滅する個体が多くなるのではないだろうか。

9 おわりに

小呂湿地には、アザミ類やフジバカマなどの吸蜜植物が多く、ヒヨウモンチョウ類だけでなく、オオチャバネセセリ、オオヒカゲなど、貴重な蝶類が飛来する環境が残されている。しかし、ササ類などの植物が徐々に侵入してきていることも確かである。

私たちは、この貴重な湿地を自然放置するのではなく、適度に手を加えることによって、湿地に依存する動植物にとって、最も良い環境を保全していかななくてはならないと思う。

(ホームページ: <http://www.sinfonia.or.jp/~sugisaka/>)

(E-Mail: sugisaka@sinfonia.or.jp)

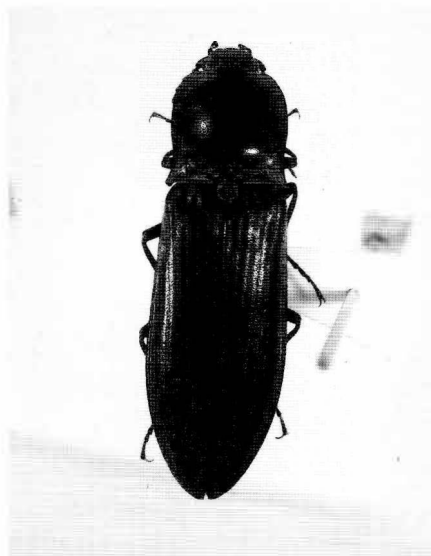
クロオオヒラタコメツキ神島に分布

大平仁夫

本種 *Paraphotistus niger* (Miwa, 1928) は図示したような体長が20mmを超すやや扁平状で光沢を有し、黒色で上翅が鈍い真鍮色の光沢をした大型種である。個体数は少なく、愛知県内では本宮山と豊田市大野瀬と東栄町と新城市からの記録があるのみで、生態については何も判明していない。

ここに図示したのは、三河生物同好会会長の浅岡孝知氏が、神島(三重県)で採集された体長が20mmの♂個体である。神島からは過去にも分布記があるが、このような小島嶼にもこのような大型種が分布することは興味のあることで、幼虫も含めて生態の解明をしていただきたいと思う。

標本: 三重県鳥羽市神島 3-V-2015 浅岡孝知採集。



愛知県北設楽郡設楽町(旧津具村)のコメツキムシ類の分布記録

大平仁夫・浅岡孝知

愛知県北設楽郡津具村は、平成の大合併で設楽町に含まれ、津具村は上津具、津具、下津具などになり、津具村の固有名はなくなった。1976年に茶臼山高原道路の建設が予定された折に、その高原道路予定地の自然環境調査が行われ、その報告書の中に津具村産の8種のコメツキムシ類が記録されている。これは、その調査に参画した浅岡と大平の採集品であるが、他にその後大平(1984a)が3種、大平(1984b)が4種を記録している。

この茶臼山高原道路は、面ノ木峠から旧津具村山林帯を通り、茶臼山へ抜ける現在の茶臼山高原道路である。ここに記録した地域名に面ノ木名で記録した標本資料は、すべて津具側の地名を指しているので誤解のないようにお願いしたい。

なお、ここに記録した種はすべて浅岡自身が採集した資料であるので、記録種の採集者名は省略した。この標本資料の一部は大平が、他は浅岡本人が保管している。

種の記録

I. サビキコリ亜科 (AGRYPNINAE)

1) *Agrypnus (Agrypnus) binodulus binodulus*

(Motschulsky, 1861) サビキコリ

標本: 2 ♀♀, 面ノ木, 12-VI, 1933; 1 ♂ 1 ♀, 同上, 14-V, 2015; 1 ♀, 同上, 30-VI, 2015. 4 ♂♂, 同上, 27-VII, 2015; 2 ♀♀, 八幡宮, 16-VI, 2015; 1 ♂, 南大桑, 1 ♂, 16-VI, 2015; 1 ♂, 西口, 2-VI, 2015.

2) *Agrypnus (Agrypnus) cordicollis*

(Candèze, 1865) ムナビロサビキコリ

標本: 1 ♂ 1 ♀ 大根平, 14-VII, 2015.

前種と同様に山林に広く分布する山林性の種であるが、個体数はより少ない。

3) *Agrypnus (Colaulon) scrofa scrofa*

(Candèze, 1873) ヒメサビキコリ

標本: 1 ♂ 1 ♀, 津具, 27-VII, 2015; 2 ♂♂ 1 ♀, 町道勢切原線(井口), 1 ♂ 1 ♀, 23-IX, 2015.

河川敷やその周辺の荒地の砂礫のある地表部に

生息する種で、後翅が正常の長さを有する。

4) *Prodrasterius agnatus* (Candèze, 1873)

マダラチビコメツキ

標本: 1 ♂, 津具, 27-VII, 2015 (LT); 1 ♂, 林道山ノ神線, 15-VII, 2015.

各地の畑地やその周辺の荒地の草地に広く分布する種である。

II. ヒゲコメツキ亜科 (OXYNOPTERINAE)

1) *Pectocera fortunei fortunei* Candèze, 1873

ヒゲコメツキ

標本: 1 ♂, 面ノ木, 2-VI, 2015; 1 ♀, つぐっ子の森, 30-VI, 2015.

各地の雑木林に広く分布する種である。

III. カネコメツキ亜科 (DENDROMETRINAE)

1) *Limonius eximus* (Lewis, 1894)

ムラサキヒメカネコメツキ

標本: 1 ♂, 面ノ木, 2-VI, 2015.

里山林に見出される種で、北設楽地域では豊根村(旧富山村)から知られているのみであった。

2) *Limoniscus vittatus* (Candèze, 1873)

タテスジカネコメツキ

標本: 1 ♀, 箱測, 26-V, 2015.

三河地方では各地から記録されており、津具からは大平(1985)がフカタ島から記録している。

3) *Denticollis miniatus* (Candèze, 1885)

ミヤマベニコメツキ

標本: 1 ♂ 1 ♀, 箱測, 26-V, 2015.

愛知県では主として三河山林地帯に分布している山地性の種である。

4) *Denticollis nipponensis* Ohira, 1973

ベニコメツキ

標本: 1 ♂, 面ノ木, 14-V, 2015; 1 ♂, 箱測, 26-V, 2015.

一般外形は前種に類似しているが、前種より大型でより低地帯に分布している。

5) *Hemicrepidius (Pseudathous) secessus secessus*

(Candèze, 1873) クロツヤハダコメツキ

標本:1♂, 面ノ木, 14-VII, 2015. 八幡宮, 3♂♂, 16-VI, 2015; 箱淵川, 2♂♂, 14-VII, 2015.

各地の雑木林に広く分布する普通種である。

6) *Parathous comes comes* (Lewis, 1894)

チャイロツヤハダコメツキ (図 E)

標本: 1♂, 面ノ木, 14-VII, 2015; 1♂, 同上, 5-VII, 2015; 1♂, 同上, 19-VIII, 2015.

三河地方では北設楽山岳地帯に分布しているが, 個体数は多くない。

7) *Megathous suturalis* (Candèze, 1883)

フトツヤハダコメツキ

標本: 1♂, 津具, 19-VII, 1936.

面ノ木周辺では希に見られる種で, 詳しい生態はまだよく判明していない。

8) *Corymbitodes concolor* (Lewis, 1894)

クロホソヒラタコメツキ (図 B)

標本: 1♀, 面ノ木, 2-VI, 2015.

山岳地性の種で, 愛知県では北山岳地帯で希に見出される種である。

9) *Actenicerus aerosus aerosus* (Lewis, 1879)

コガタシモフリコメツキ (図 G)

標本: 1♀, グリーンパーク, 26-VI, 2015.

三河山地では広く分布しており, 成虫は春から初夏に見出される。

10) *Actenicerus pruinus* Motschulsky, 1861

シモフリコメツキ

標本: 1♀, 面ノ木, 5-V, 1994; 1♀, グリーンパーク, 26-V, 2015.

広葉雑木林に分布する種で, 三河の山地には広く分布しているが, 開けた牧草地周辺で春から初夏に現れる。

IV. コメツキ亜科 (ELATERINAE)

1) *Dolerosomus gracilis* (Candèze, 1873)

キバネホソコメツキ

標本: 2♀♀, 面ノ木, 27-VI, 1993; 1♂, 下津具, 26-V, 2015; 2♂♂, グリーンパーク, 26-V, 2015; 1♂, 林道丸山線, 30-VI, 2015.

2) *Procraerus helvolus* (Candèze, 1873)

ケブカクロコメツキ

標本: 6exs. 木地山, 19-VIII, 1981.

山林の花に飛来するが, 個体数は多くない。こ

の近くでは設楽町の段戸裏谷でよく見出されるが, 他では少ない。

3) *Ampedus (Ampedus) aureovestitus* Kishii, 1966
ケブカクロコメツキ

標本: 1♀, 面ノ木, 14-V, 2015; 1♂, 箱淵, 26-V, 2015.

長野県などの山岳地で見出される体長 10mm 内外で黒色, 肢や触角は黒褐色をした種で, この地方では成虫は春に現れるが, 個体数は少ない。

4) *Ampedus (Ampedus) ivanovi* (Jakobson, 1913)
クロコメツキ

標本: 1♀, グリーンパーク, 26-V; 面ノ木, 1♀, 2-VI, 2015.

広葉雑木林に分布する種で, 三河地方では北設山岳地帯に分布しており, 牧場や草原帯などの開けた場所に春から夏に現れる。

5) *Ampedus (Ampedus) hypogastricus hypogastricus* (Candèze, 1873) アカハラクロコメツキ

標本: 1♂, 面ノ木, 14-V, 2015; 1♀, 16-V, 2015.

一般外形は前種に類似するが, 本種の腹節は赤褐色をしているので識別できる。

V. クシコメツキ亜科 (MELANOTINAE)

1) *Melanotus (Spheniscosomus) cete cete*

Candèze, 1860 アカアシオオクシコメツキ

標本: 1♂1♀, 西大桑, 2-VI, 2015; 1♀, 大根平, 16-VI, 2015.

各地の雑木林に分布するよく知られた種である。

2) *Melanotus (Spheniscosomus) koikei*

(Kishii et Ohira, 1956) ヒラタクシコメツキ

標本: 1♂, 林道林ノ線, 14-VII, 2015; 1♂, 面ノ木, 14-VIII, 2015; 1♂, 面ノ木, 14-VII, 2015; 1♂, 津具, 23-VII, 2015.

照葉樹林帯に分布する種で, 気温の温暖化の影響で林相が変わってきており, 本種の個体数が増えている。津具からはこれが最初の記録と思われる。

3) *Melanotus (Melanotus) correctus correctus*

Candèze, 1865 ヒラタクロクシコメツキ

標本: 2♂♂, 上折元, 6-V, 2015; 1♂, 面ノ木, 14-VIII, 2015; 1♂, 津具, 23-VII, 2015.

4) *Melanotus (Melanotus) sperendus sperendus*

Candèze, 1865 ナガチャクシコメツキ (図 F)

標本：1♂，西口，2-VI，2015。

個体数の少ない種で，集団では発生していない。北設楽町地域では，東栄町と富山村地域で各1例の記録があるのみである。

5) *Melanotus (Melanotus) senilis senilis*

Candèze, 1865 クロクシコメツキ

標本：1♂，八幡宮，16-VI，2015；1♂，柿平，16-VI，2015；1♀，柿平，30-VI，2015。

牧草地や畑地の周辺に多い種である。幼虫は畑に栽培の根菜類の根茎に食い入るとされている。

6) *Melanotus (Melanotus) erythropygus erythropygus*

Candèze, 1873 コガタクシコメツキ

標本：2♂♂，面ノ木，2-VI，2015；2♂♂，下津具，26-IV，2015；1♂，柿平，30-VI，2015。

各地の雑木林や畑地（果樹園）などでよく見出される種である。

V. ニセムナボソコメツキ亜科 (SYNAPTINAE)

1) *Dalopius patagiatus* (Lewis, 1894)

クロスジヒメコメツキ

標本：1♂，面ノ木，23-IX，2015。

長野県から関東地方の山岳地帯に分布する種で，三河地方では，主として長野県との境地域の山岳地帯で見出されている。

2) *Ectinus (Ectinoides) insignitus* (Lewis, 1894)

ヨツキボシコメツキ (図A)

標本：1♀，南大桑，16-VI，2015。

各地の雑木林に広く分布する種であるが，集団で生息することはない。

3) *Ectinus (Ectinus) higonius* (Lewis, 1894)

クロムナボソコメツキ

標本：1♀，箱淵，22-VI，2015。

三河地方からは記録の少ない種で，現在までに豊田市大野瀬（旧稲武町大野瀬）からの記録があるのみである。

4) *Ectinus (Ectinus) sericeus sericeus*

Candèze, 1878 カバイロコメツキ

標本：1♀，面ノ木，30-VI，2015；3♂♂，下津具，26-V，2015；1♂，グリーンパーク，26-V，2015；2♀♀，箱淵川，26-V，2015；1♀，林道丸山線，30-VI，2015。

畑地や牧草地の周辺の雑木山林に分布する種で

ある。

5) *Glyphonyx bicolor bicolor* Candèze, 1893

キバネクチボソコメツキ (図C)

標本：1♂，面ノ木，19-VII，2015；1♂，同上，5-VIII，2015。

上翅が赤褐色をした暖地系の種で，三河地方では個体数は多くないが各地で記録されている。

6) *Parasilesis musculus musculus* Candèze, 1873

クチプトコメツキ

標本：1ex.，津具～西口，11-IX，2015；6exs.，柿平，30-VI，2015；4exs.，林道丸山線，30-VI，2015；3exs.，八幡宮，16-VI，2015。

VI. ハナコメツキ亜科 (CARDIOPHORINAE)

1) *Platynychus nothus* (Candèze, 1865)

オオハナコメツキ

標本：2♂♂♀，面ノ木，14-V，2015；1♀，箱淵，26-V，2015。

各地の雑木林や畑地などに広く分布する種である。

2) *Cardiophorus pinguis* Lewis, 1894

クロハナコメツキ

標本：1ex.，箱淵，26-V，2015；1ex.，林道丸山線，30-VI，2015。

各地の雑木林に広く分布する種である。

3) *Paracardiophorus pullatus pullatus*

(Candèze, 1873) コハナコメツキ

標本：1ex.，下津具，26-V，2015。

各地の砂礫の多い河川敷周辺に広く分布する種である。

VII. ミズギワコメツキ亜科 (NEGASTRIINAE)

1) *Fleutiauxellus curatus curatus* (Lewis, 1873)

ミズギワコメツキ

標本：2exs.，木地山，19-VII，1986。

河川敷きなどの礫などがあるところに生息している。

2) *Yukoana carinicornis* (Lewis, 1894)

ヘリマメコメツキ (図D)

標本：2exs.，西口，2-VI，2015。

クヌギやコナラの若葉上で初夏によく見られる。

3) *Oedostethus telluris* (Lewis, 1879)

クロツヤミズギワコメツキ

標本：11exs.，八幡宮，16-VI，2015；1ex.，箱淵川，

14-VII, 2015; 西口, 2-VI, 2015.

河川敷周辺の灌木などでよく見られる種で、時に集団で発生している。また、河川敷の柳類に発生するアブアムシ類の甘露にもよく集まる。

引用文献・参考文献

大平仁夫・浅岡孝知 (1976) 茶臼山高原道路 (県道茶臼山高原設楽線) 建設予定地域の自然環境調査報告書 (別刷) : 125-229.

大平仁夫 (1980) 愛知県豊根村の動物 (コメツキムシ科) : 83-84, 204-207. (豊根村教育委員会)

大平仁夫 (1984a) 原田猪津氏採集のコメツキムシ (1), 三河の昆虫, (30): 140-142.

----- (1984b) 同上 (II), 佳香蝶, 36, (138) : 17-19.

----- (1996) 稲武町史 (自然・資料編) : 203-209. (コメツキムシ科).

大平仁夫・伊藤六仁 (2001) 愛知県東栄町のコメツキムシについて, 鳳来寺山自然科学博物館館報, (30) : 1-8.

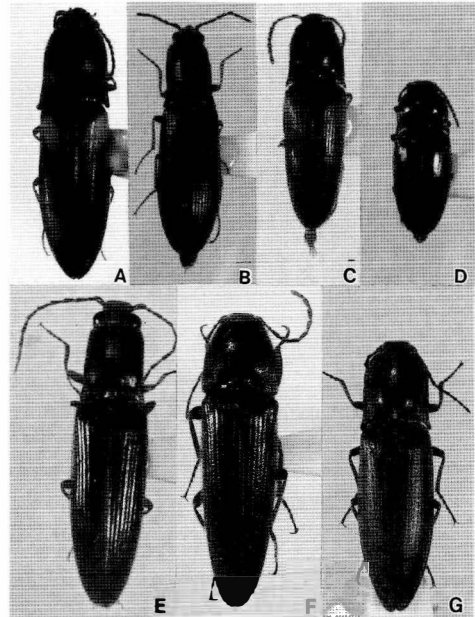


図1. A. ヨツキボシコメツキ, ♀ (体長 7mm) ; B. クロホソヒラタコメツキ, ♀ (9mm) ; C. キバネクチボソコメツキ, ♂ (5mm) ; D. ヘリマメコメツキ, ♀ (4mm) ; E. チャイロツヤハダコメツキ, ♂ (12mm) ; F. ナガチャクシコメツキ, ♂ (13mm) ; G. コガタシモフリコメツキ (9.5mm) .

愛知県内の低地におけるミヤマカラスアゲハ第2化の発生期について

大曾根 剛

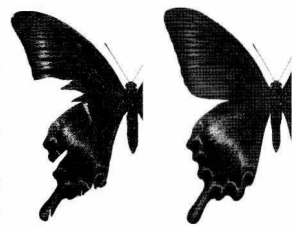
愛知県のミヤマカラスアゲハ *Papilio maackii* は、個体数は多くはないが、主に山地帯に広く分布する。平野部の丘陵地～低山地の低地においては4月中旬～5月上旬に成虫が少数記録されている。しかし、それ以後、低地では成虫の姿は見られなくなり、場所によっては8月下旬以降の秋期に山地帯より飛来したと思われる成虫が出現し、その♀が食餌植物のカラスザンショウや植栽のキハダ等に産卵して、晩秋にはときどき越冬蛹になる幼虫が見られることがある。

自分自身もこのような本種の低地での周年経過に興味を持ちつつ、永年、第2化の新成虫の確認に努めたが、全く記録できなかつた。しかし、本年、ようやく第2化の個体を確認したので、報告する。

記録：2015年6月6日、額田郡幸田町萩遠峯遠望山、1♂採集・他2♂確認；6月12日、同地、

5♂確認；6月12日、蒲郡市柏原町大迫坂野峠、1♂採集。

6月6日に遠望山山頂で見られた個体は、いずれも新鮮ではあったが翅は破損



低地で確認された第2化ミヤマカラスアゲハ♂
左：遠望山産、右：坂野峠産

していたため、確認のため、1個体のみ採集した。6月12日の坂野峠付近で得られた個体は新鮮であったことから、主に同山の中腹以上の山腹で発生した個体が、主に山頂に飛来するものと思われた。

以上のことから、愛知県内の低地では、6月上旬にはすでに本種の第2化の新成虫（夏型）が発生していることがわかった。

岡崎市の市街地で記録された興味深い蝶類

杉坂美典

1 はじめに

地球温暖化の影響で南方から飛来する蝶類が増えたが、丘陵地や山地に生息する種が市街地に飛来したり、市街地に点在する社寺林や公園などで生き残っている種もある。そこで、このような蝶類について2000年以降に記録されたものをまとめてみた。

2 市街地で記録された蝶類

(1) キマダラセセリ



<記録>

- ・岡崎市戸崎町, 2004.9.16, 4♂♂2♀♀, 杉坂美典
- ・岡崎市戸崎町, 2005.9.15, 6♂♂1♀, 杉坂美典
- ・岡崎市日名南町, 2012.7.7, 1♀, 杉坂美典

<解説>

戸崎町では、発生を繰り返している。

(2) ジャコウアゲハ



<記録>

- ・岡崎市日名南町, 2001.5.6, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市日名南町, 2001.9.8, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市日名南町, 2002.6.13, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市日名南町, 2002.7.30, 2♀♀, 杉坂美典
- ・岡崎市日名南町, 2003.6.22, 5♂♂2♀♀, 杉坂美典
- ・岡崎市昭和町, 2004.7.28, 1♀, 杉坂美典
- ・岡崎市日名南町, 2005.6.25, 2♂♂1♀, 杉坂美典
- ・岡崎市八帖北町, 2012.6.23, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市日名南町, 2014.4.28, 2♀♀, 杉坂美典
- ・岡崎市日名南町, 2014.9.20, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市日名南町, 2015.4.27, 1♂, 杉坂美典

<解説>

矢作川河川敷で発生しており、近隣に飛翔している。

(3) ナガサキアゲハ



<記録>

- ・岡崎市戸崎町, 2003.7.17, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市戸崎町, 2004.7.6, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市戸崎町, 2005.9.23, 1♀, 杉坂美典
- ・岡崎市若松東, 2007.8.30, 1♀, 柵木宗孝

- ・岡崎市井田町, 2009.5.5, 1 ♀, 深田昭彦
- ・岡崎市日名南町, 2009.8.3, 1 ♀, 杉坂美典
- ・岡崎市欠町, 2010.6.25, 1 ♂, 鍛冶梁みつ子
- ・岡崎市六名3丁目, 2010.6.27, 1 ♂,
杉坂美典
- ・岡崎市康生町, 2010.8.27, 1 ♂, 杉坂浩太
- ・岡崎市若松町, 2010.9.19, 1 ♂, 杉浦仁美
- ・岡崎市六名3丁目, 2011.6.26, 1 ♂,
杉坂美典
- ・岡崎市竜美西, 2012.5.9, 1 ♀, 永田三朗
- ・岡崎市六名3丁目, 2012.5.10, 1 ♂,
杉坂美典
- ・岡崎市日名南町, 2013.9.8, 1 ♀, 杉坂美典
- ・岡崎市稲熊町, 2014.5.1, 1 ♂, 杉坂美典

<解説>

2003年以降, 市内の各所で発生している。

(4) ムラサキツバメ



<記録>

- ・岡崎市池金町, 2010.2.27, 1 ex, 杉坂美典
- ・岡崎市大門3丁目, 2010.11.22, 1 ♂,
杉坂美典
- ・岡崎市若松町, 2011.3.14, 1 ♂, 杉坂美典
- ・岡崎市岡町, 2011.4.1, 1 ♂ 1 ♀, 杉坂美典
- ・岡崎市日名南町, 2011.12.4, 1 ♂, 杉坂美典
- ・岡崎市六名3丁目, 2012.10.16, 1 ♂,
杉坂美典

<解説>

2010年以降, 市内の平地でも発生するようになった。

(5) ムラサキシジミ



<記録>

- ・岡崎市戸崎町, 2001.5.16, 1 ♂, 杉坂美典
- ・岡崎市戸崎町, 2003.9.26, 2 ♂♂, 杉坂美典
- ・岡崎市戸崎町, 2005.10.13, 1 ♂, 杉坂美典
- ・岡崎市若松町, 2010.6.17, 1 ♀, 杉浦仁美
- ・岡崎市竜美東, 2010.8.6, 1 ♀, 杉浦仁美
- ・岡崎市康生町, 2010.8.27, 1 ♂, 杉坂浩太

<解説>

公園や寺社林などで僅かに発生している。

(6) トラフシジミ



<記録>

- ・岡崎市上地6丁目, 2000.4.4, 1 ♂,
中島由紀子
- ・岡崎市戸崎町, 2004.4.20, 1 ♂, 杉坂美典
- ・岡崎市明大寺町, 2012.6.15, 1 ♂, 杉坂和俊
- ・岡崎市日名南町, 2015.5.2, 1 ♂, 杉坂美典

<解説>

市街地でも記録が出たが, 非常に珍しい蝶である。

(7) テングチョウ



<記録>

- ・岡崎市戸崎町, 2002.3.26, 1♀, 杉坂美典
- ・岡崎市戸崎町, 2003.5.29, 1ex, 杉坂美典
- ・岡崎市日名南町, 2014.11.30, 1ex, 杉坂美典
- ・岡崎市日名南町, 2015.3.28, 1♂, 杉坂美典

<解説>

近年、丘陵地で大発生しており、市街地にも飛来するようになった。

(8) ミドリヒョウモン



<記録>

- ・岡崎市日名南町, 2015.9.23, 1♀, 杉坂美典

<解説>

丘陵地に見られ、市街地に飛来するのは稀である。

(9) コミスジ

<記録>

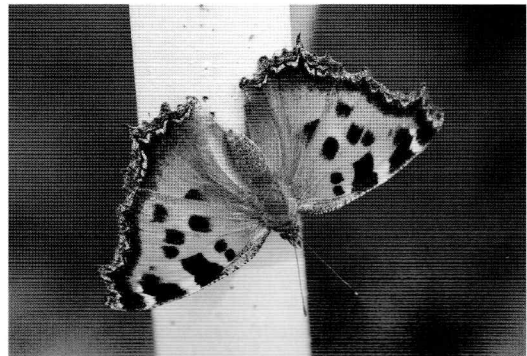
- ・岡崎市井田町, 2000.10.3, 1♀, 杉坂美典

<解説>

以前は、岡崎公園でも発生していたが見られなくなった。



(10) ヒオドシチョウ



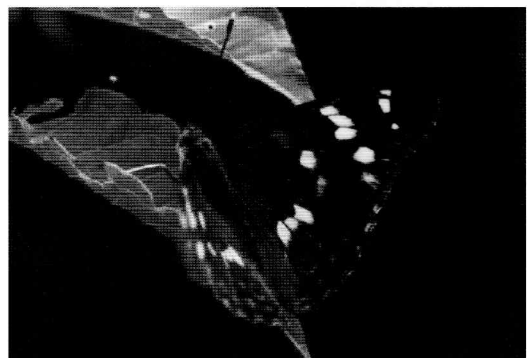
<記録>

- ・岡崎市日名南町, 2015.5.21, 2ex, 杉坂美典
- ・岡崎市日名南町, 2015.5.22, 14ex, 杉坂美典
- ・岡崎市日名南町, 2015.5.23, 1ex, 杉坂美典

<解説>

年によって増減が激しく、2015年は各所で発生した。

(11) コムラサキ



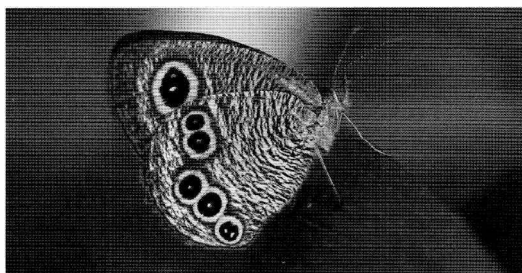
<記録>

- ・岡崎市日名南町, 2000.6.18, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市日名南町, 2000.9.16, 1♂, 杉坂美典

<解説>

近年は、非常に少なくなった。

(12) ヒメウラナミジャノメ



<記録>

- ・岡崎市欠町, 2000.5.29, 1♂1♀, 大矢佑基
- ・岡崎市日名南町, 2000.6.11, 1♂, 杉坂美典

<解説>

丘陵地に見られ, 市街地に飛来するのは稀である。

(13) クロコノマチョウ



<記録>

- ・岡崎市上地3丁目, 2000.5.7, 1♂, 成瀬悠人
- ・岡崎市井田町, 2000.5.25, 1♀, 杉坂美典
- ・岡崎市戸崎町, 2003.5.28, 1♀, 杉坂美典
- ・岡崎市戸崎町, 2004.9.8, 1♀, 杉坂美典
- ・岡崎市戸崎町, 2005.10.20, 1♀, 杉坂美典
- ・岡崎市竜美台, 2010.7.7, 1♀, 杉浦仁美
- ・岡崎市六名3丁目, 2011.8.12, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市真宮町, 2011.9.18, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市小豆坂町, 2015.9.28, 3♂♂, 杉坂美典

<解説>

温暖化で, 各所で見られるようになった。

3 おわりに

このような蝶が市街地で見られた場所は, 小さな林があったり, 植栽が施されていたりすることが多く, 近隣の発生地から何らかの理由で飛来した個体が多いと思われる。

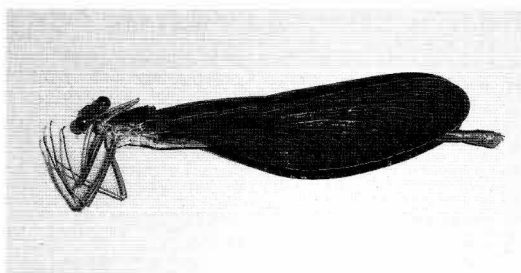
環境緑化に努めていくことの大切さを示す事例と言えるであろう。

私の昆虫記① 刈谷市丸田町でハグロトンボを採集

原田 究

ハグロトンボ (*Atrocalopteryx atrata*) は, 平地から丘陵地の河川や用水路など抽水植物や沈水植物が繁茂する環境に生息する。

筆者は本種1♂を刈谷市丸田町の自宅庭で2015年7月26日に採集しているので報告する。自宅周辺には, 用水路や池もなく, 庭に池のある家もない。周辺は工場に囲まれており, 田畑もない。筆者が調査活動を行っていた昭和50年以前にも, この周辺で見かけたことがないので, 2015年7月11日に東海地方に接近した台風によって他の地域から飛ばされてきた可能性が高い。平成元年発行の刈谷市史には過去にも記録が無いが, 筆者は愛



知教育大学に隣接する洲原池にて昭和48年頃目視で確認している。

昆虫採集会のあれこれ

山崎 隆 弘

はじめに

三河昆虫研究会の例会の一つとして採集会がありました。虫仲間との交流のなかで得られた知識や親睦はどれほどあったことか計り知れません。本会の節目にあたって、ここに採集会を回想してあの良き日の幾つかを振り返ってみたいと思います。1964年に発足した三河昆虫研究会は、3年目を迎えた1966年1月15日に「三河昆虫研究会連絡会報」第1号を発刊しました。この中で大平仁夫先生が、発刊のことばとして述べられていました。「この頃、採集は昆虫が少なくなるからよくないといったようなことが云われていますが、本当に昆虫が好きであれば、昆虫を大切に扱い無駄な採集はしないという立場から、この会では大いに採集をすすめて、正しい知識を少しでも身につけて頂くことにしています。自然を学ぶには、まず自然に直接接することからはじまり、また採集は、健康にもたいへんによいことだと思います。」と書かれています。私は75歳の素人虫屋ですが、この言葉のように昆虫人生を歩み続けています。このおかげか健康にも恵まれ、充実した人生の楽園に暮らす住民の一人です。

研究会発足当時の採集会は

「三河昆虫研究会連絡会報」第1号には昭和40年度の主な行事の中にある採集会の計画を見てみ



図1 三河昆虫研究会連絡会報、第1号と第2号

てみようかと思います。ギフチョウ採集会(4月11日)、ウスバシロチョウ採集会(5月2日)、大入溪谷採集会(6月5・6日)、ミドリシジミ採集会(6月27日)、ヒメハルゼミの鳴き声を聞く会(7月18日)、段戸山採集会(8月2・3日)、アサギマダラ採集会(9月25日)などです。当時は、大平仁夫先生が謄写版印刷した葉書の採集案内が届きました。初心者の私はワクワクしながら何度も読み返しては、その日を待っていたのが思い出されます。宿泊を兼ねた採集会もありました「リュックを背負い米の持参で、交通機関を利用して、徒歩に頼ったものです。この時代は身体と時間をかけての採集行だっただけに、今なお特別に印象深いものです。その中のひとつですが、連絡会報2号にギフチョウ採集会(4月11日)についての記述があります。宮路山から五井山にかけてでした。驚くのはその内容で、参加者が19名もあったことです。そして、ギフチョウが全部で42頭と記されています。以前は遠望峰から五井山、宮路山にかけての尾根道には普通にいたのです。その光景は昨日の様にはっきりと思い出されます。現在、当地域の自然環境は変わり、ギフチョウは姿を消してしまいました。今となっては残された標本のみが、唯一の証と言えるでしょう。

三河湾の島々へ

三河湾には有人島の篠島・日間賀島・佐久島と無人島の三河大島・竹島・梶島などがありますが、幾つかの思い出の中から二、三を選んでみたいと思います。この中で最も多く計画したのが佐久島でした。2007年4月29日では、大平先生、大場先生夫妻、浅岡さん、水野さん、柵木さん、山本さんの8人と多数の参加がありました。モモチョッキリ、コバネカミキリ類などの甲虫が多く得られたことや、柵木さん、山本さんらがハンノキ林でミドリシジミを確認したことなど大収穫がありました。この日の様子は浅岡さんが「佐久島の採集



図2 三河湾佐久島に行く参加者

会」として、「三河の昆虫」55号に記述されています。そして、2009年には佐久島の昆虫調査を進展させようと集中的に4回の計画をしたことがありました。5月10日には伊藤さん、小鹿さんの3名でした。この日の様子は小鹿さんが「2009年の佐久島調査同行記」として記述され、ナガサキアゲハ、モンキアゲハ、ミカワオサムシなど興味深い種が記述されています。5月24日には大平先生、浅岡さんの3名でした。カミキリ類や、カメムシ類、海浜性のコメツキなどを採集しています。しかし、6月7日と9月27日には浅岡さんと二人だけの例会になってしまいました。海浜性のものを除けば、魅力に乏しい場所かも知れませんが、参加者が少ないというのはちょっと寂しさがよぎりました。

三重県鳥羽市神島へは2010年5月9日のことでした。好天気に恵まれ、浅岡さん、伊藤さん、水野さんの4人でした。伊良湖港からの高速艇で神島へ渡った後、みんな探検気分ですべてをしながら、島の最高地点の灯明山(標高171m)を目指



図3 三河湾佐久島の海岸風景

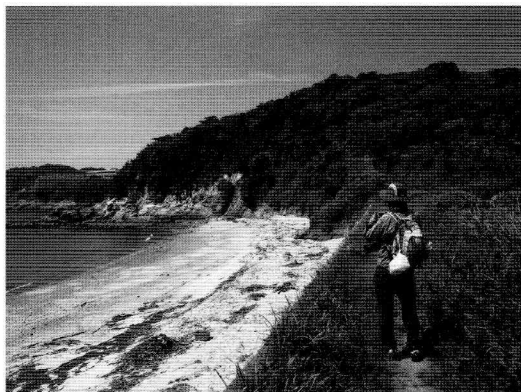


図4 三河湾篠島の環境と観察風景

して進みました。途中オオツノカメムシ、ウシカメムシなどの興味深い獲物を確保しながら、神島灯台を見学して、旧陸軍の「監的哨跡」にも立寄りながら、少々バテぎみの身体を奮い立たせて島を一周しました。この日の様子は伊藤さんが「神島採集記」として、「三河の昆虫」58号に記述されています。

知多郡篠島へは再度の計画ですが、2014年6月1日に実施しました。浅岡さんと判家さんの3人で島を一巡の採集会でした。少々暑い日でしたが、この時期は虫も多くいたので存分に楽しむことができました。小磯島の地点では三河湾で初めてのカメノコテントウを採集したことや、リンゴカミキリや、ハムシ、テントウムシなどの小甲虫もいろいろ採れました。写真撮影に夢中の判家さんも題材には事欠かない様子でした。さらに、本日の目玉は浅岡さんがなんと、南方系のオオキンカメムシを捕獲したのではありませんか。この日の様子は判家さんが「篠島採集記」として、「三河の昆虫」62号に記述されています。



図5 下伊那蛇峠山馬の背での記念写真

ちょっと遠くへ

2008年6月1日には長野県下伊那郡蛇峠山へ伊藤さん、中根さん、水野さんの4人でした。よく出掛ける場所ですが、好天气に恵まれ治部坂園地のシラカンバの下に咲くレンゲツツジが満開で、高原気分を満悦しました。ちょうどこの頃、蛇峠山の馬の背では可憐なスズランが咲いて、遠くにはアルプスの連山がダイナミックに展開していて、その大パノラマを存分に楽しみました。しかも、この時期はシモフリコメツキが多くいて、私の好きなハムシも各種みられて云うことなしでした。



図6 下伊那しらびそ峠で記念写真

2011年7月6日には長野県下伊那のしらびそ高原でした。大平先生、中根さん、水野さん、伊藤さんの5人でした。この日は上天気の良い採集日和でした。年齢にもかかわらずそれぞれの目的で大ハッスル。南アルプスの連山を目前にオオセンチコガネが彩りを添へ、高地での採集会として思い出深いものでした。2012年7月5日には長野県下伊那郡長者峰と高嶺で、大平先生、浅岡さん、伊藤さんの4人でした。梅雨空の下でしたがエゾハルゼミの声を聴きながらの採集会で、時々ガスに煙る山頂部は山岳気分も満点でした。この日の様子は伊藤さんが「長野県平谷村長者峰・高嶺採集会」として、「三河の昆虫」60号に記述しています。

最近の採集会に思うこと

最近、採集会の予定日に二人もしくは三人だけのことが目立つようになりました。研究会の発足当時ではとても考えられないことで、いつも多

くの参加者がいて盛況でした。今は個人的に車でどこでもいける時代で、若い人や児童の参加もなくなり、目的も専門性が高くなって、親睦は二の次になってしまったのではないのでしょうか。あの良き時代は夢物語になってしまったのでしょうか。もはや採集会は前時代的な行事と言えるのかも知れませんが。

2013年7月21日の静岡県浜松市天竜区蛇頭山は、伊藤さんと二人だけでした。伊藤さんは元気いっぱい写真を取りながら山頂との往復を、私は周辺部で甲虫採集をしながらの一時を楽しみました。この日の様子は伊藤さんが「蛇頭山採集記」として、「三河の昆虫」61号に記述しています。その翌年のことです。伊藤さんは持病が悪化して、残念なことに突然の別れとなってしまいました。幾多の採集会には必ず来て頂いただけに、辛さはひとしおでした。お疲れ様でしたと心からのご冥福をお祈りします。

岡崎市額田「おおだの森」での採集会は、2011年4月30日が二回目になります。6人の参加者があった前回と比べて、この日は杉浦さんと二人だけになってしまいました。しかし、新緑の下に身を置いての山歩きは心地よく、しかもヒョウタンゴミムシダマシヤ、オオゴキブリ、イタヤハマキチョッキリなどの獲物には事欠きませんでした。しかし採集会の行事としてみれば、心の中にちょっと引っかかるものが残りました。



図7 新緑の岡崎市おおだの森をゆく虫屋

2015年5月31日には、三重県神島でももう一度計画をしました。その日、自宅から乗用車で集合場所の伊良湖港に到着。しかし、参加者の姿は



渥美半島 (2010-IV-21)



おおだの森 (2011-IV-30)



作手高原 (2007-VII-10)

なかったのです。もしかして、だれも来ないではないかとの不安な気持ちが頭をよぎりました。ところがです。暫くした時でした。浅岡さんの姿が見えたのではありませんか。この時、本当に嬉しくて心からほっと胸を撫で下ろしました。二人で乗船場に向かいましたが、あいにくのこと風が強くて船が大揺れになることが予測されましたが、渡船は予定通りに出港すると船長さんから聞きました。経験はさすがでした。巧みな舵さばきで大波を乗り切り、そのお陰で無事神島に渡ることができました。上陸後も強風下での採集となりましたが、獲物は予想以上に満足できるものとなりました。これは浅岡さんのお陰です。またひとつ、思い出深い一日が増えました。感謝。

2014年7月27日は浜松市天竜区の竜頭山でした。この日、集合場所に現れたのは判家さんだけです。本当に一人ではなくてよかったと、きょうも胸を撫で下ろしました。これが、長年にわたる採集会のフィナーレになるかと思われたので、採集会として思う存分愉しむことにしました。その甲斐があつてか、成果を伴った思いで深い日となりました。同行の判家さんに対して、深く感謝する素人虫屋の私でした。

おわりに

多くの皆様と共に続け楽しんだ採集会は、2015年度で一区切りとすることにしました。初心者頃の採集会で味わった体験の中で感動した思い出、そして虫好きの先輩から伝わってきたもの、そんな場を2000年代にも虫好きと共有できたらと、計画と案内の世話役を努めさせていただきました。ここに記すことが出来なかった例会はこの何倍もありました。愛知県内では渥美半島・三河大島・

梶島・御堂山・西浦半島・三ヶ根山・豊川市財賀寺・三河本宮山・舟着山・鳳来町亀淵溪谷・作手高原・段戸裏谷・茶臼山・面ノ木峠・三河高原牧場・岡崎市鳥川などです。県外では長野県の蓼科高原や下伊那郡峠山、静岡県の天竜川などがありました。この例会の中で多くの方々から授かった虫学や、楽しい交流もさせていただきました。改めてここに厚く感謝したいと思います。今後、採集会という予定はなくとも、採集にはご一緒させて頂くことを願って、虫友への感謝の念を心より込めたいと思います。終わりにあたり、すべての採集会が私としては代えがたい心の宝ものとして、今後の励みにしたいと心から思う心境です。

引用文献

1. 大平仁夫 (1966) 発刊のことは、三河昆虫研究会連絡会報, (1): 1.
2. 三河昆虫研究会連絡会報事務局 (1966) 昭和40年度の主な行事, 三河昆虫研究会連絡会報, (1): 5-6.
3. 高柳久和・山崎隆弘 (1966) ギフチョウ採集会, 三河昆虫研究会連絡会報, (2): 6-8.
4. 浅岡孝知 (2008) 佐久島の採集会, 三河の昆虫, (55): 684.
5. 小鹿 亨 (2010) 2009年の佐久島調査同行記, 三河の昆虫, (57): 727.
6. 伊藤昭博 (2011) 神島採集記, 三河の昆虫, (58): 752.
7. 伊藤昭博 (2012) 2011年の採集会の概要と「しらびそ高原」採集記, 三河の昆虫, (59): 775.
8. 伊藤昭博 (2013) 長野県平谷村長者峰・高嶺採集会, 三河の昆虫, (60): 802.
9. 判家卓司 (2015) 篠島採集記, 三河の昆虫, (62): 843-844.

寺下正清さんを偲んで

大平仁夫

寺下正清さんは、愛知教育大学職業科の15回生で、昆虫研究室に入り、神谷一男教授から昆虫学の指導を受けた最後のクラスの方です。足助町則定の生まれで、昆虫研究室が主催した第一次八重山諸島の昆虫類の調査を約30日間調査。当時はまだ米軍の統治下にあつて、通貨はドル(\$)で、鹿児島港から船で渡航。那覇港では税関の検査と検疫があつた。島内は至る処に戦跡が残っている中での調査であつた。ただ、熱帯の青空と灼熱の太陽を浴びて舞うツマベニチヨウの美し姿は忘れられない。

石垣島では寺下さんは、同僚の飯尾さんと西表島の横断を決行、途中で道に迷い、ハブの出没する山中で野宿するハプニングがあつた。

大学を出て、地元の学校の教師になり、退職後家に昆虫研究室(図)を作り、地域の子供たちを集めて昆虫教室を開いて、昆虫新聞を出したりされていた。その後にも毎年のように石垣島や西表島や波照間島などに出かけて調査をされていた。2005年に虫仲間の権田武さんや水野宏さんらと西表島などに行かれたのが、虫屋たちとの最後の旅であつた。手紙ではいつも会のことを気にして、手助けすることはないかと書いてこられた。

寺下さんは、日常はいつも控えめで静かに物事を処理されていた。脳内出血をされ、療養をされ

ていたが、2015年8月に71才の若さで他界された。心から哀悼の意を表します。(大平記)



黒島研究所で海ガメを放流の寺下さんとそのり子夫人
(平成 26.12.14)



寺下さんの研究室(背後の建物)の整理の手伝い
(平成 27.11.19)
(右より寺下のり子、大平仁夫、浅岡孝和、山崎隆弘)

私の昆虫記② 刈谷市丸田町でルリカミキリを記録

原田 究

ルリカミキリ(*Bacchisa fortunei*)は5月に出現し、ヒメリンゴや梨、ウシコロシなどバラ科の生木に見られ、葉脈や葉柄を後食する。近年の都市化に伴い姿を消しつつあつたがセイヨウベニカナメモチ(レッドロビン)の生け垣の増加に伴い本種の個体数も増えている。筆者は本種1♀を2015年5月23日に刈谷市丸田町の自宅庭のリンゴの枝に

夕方頃留まっているのを採集したので報告する。

